

## 令和6年度 第1回長野市総合教育会議 議事録（要旨）

1 日 時 令和6年7月3日（水） 午後3時30分から午後4時40分まで

2 会 場 長野市役所第一庁舎5階 庁議室

3 次 第

(1) 開会

(2) 挨拶

(3) 自己紹介

(4) 議事

①SaSaLANDの現状と傾向、今後の見通しについて

②子どもの体験・学び応援事業「みらいハッ！ケン」プロジェクトについて

(5) 閉会

4 出席者

○荻原健司市長

○長野市教育委員会

丸山陽一教育長、近藤守教育長職務代理者、茅野理恵委員、鷺澤幸一委員  
山口美和委員

○オブザーバー

西澤雅樹副市長

○職員

中村企画政策部長、前島教育次長、唐木教育次長、島田こども未来部長  
小池企画政策部参事ほか関係職員

5 会議要旨

(1) 開会 進行：中村企画政策部長

(2) 挨拶

荻原市長

- ・教育委員の皆様には、教育行政のみならず、市政運営全般にわたりお力添えをいただき感謝申し上げます。
- ・本年度、子育て支援教育の充実分野では、4月にSaSaLANDをオープンしたほか、しなのきサポーターの4校への配置や小中学校トイレの洋式化改修、小学校体育館3校へ試験的に冷房の導入を行っている。

- ・ 今月 28 日には、ながのこども館「ながノビ！」がオープンする。
- ・ 本日は議題が 2 つあり、1 つ目の議題は、SaSaLAND について。オープンから 3 か月余りが経過し、教育委員会から現状と傾向、今後について説明申し上げるので支援の充実に向け、意見交換をお願いする。
- ・ 2 つ目の議題は「みらいハッ！ケン」プロジェクト、本年度から本格実施をしており、意見交換をお願いする。
- ・ 皆さんから忌憚のないご意見をお願い申し上げます。

#### 丸山教育長

- ・ 本年度第 1 回目となる総合教育会議を開催いただき、感謝申し上げます。
- ・ 第三次長野市教育振興基本計画に基づき、しなのきプランⅡを 4 月に策定した。
- ・ SaSaLAND は現在 1 日平均 28 人の子どもたちが利用しており、児童生徒が安心を実感できる居場所に繋がっていると考えている。この後、現状と傾向、今後の見通しについて説明申し上げます。
- ・ 本日の会議が、さらなる支援の充実に向けた貴重な意見交換となるよう、お願い申し上げます。

#### (3) 議事

##### ①SaSaLAND の現状と傾向、今後の見通しについて

- ・ 唐木教育次長から資料 1 に基づき説明

#### 【意見交換】

(市長) 市全体の不登校児童生徒数、以前は 800 人と伺ったが現状はどうか。

(唐木教育次長) 現在、集計中であるが増加傾向にある。

(市長) スライド 9 それぞれの施設に重複して登録している子もいるのか。

(唐木教育次長) そのとおりである。

(市長) 不登校が 800 人ほどいて、実際に教育支援センターに登録している人数はどのくらいなのか。

(学校教育課長) 昨年度末で 130 人 (7 か所) ほどである。

(市長) 多くの子どもが教育支援センターに登録しておらず、家から出れない子どもが実際にはいるということになる。

(教育長) キャパのこともある。また、民間を利用している方もいる。

(学校教育課長) 昨年度のフリースクール利用者は 60~70 名ほど。そのほか自宅でのオンラインや完全に学校に行けないわけではなく別教室への登校など、状況は様々ある。

(委員) 教育支援センターに来ている子どもを見ると、本当に生き生きしており、本来

の自分を取り戻して、自己肯定感が育ってきている。学校はいろいろな制約が増え、合わない子どもたちにとって行きにくくなってきた。SaSaLAND をみて、学校の在り方自体も変わらないといけなと感じた。

(委員) 不登校は年 30 日欠席が基準となっており、月 3 日休めば超えてくるため、登校できている子どもでも不登校の区分に入っている子もいる。今回、SaSaLAND に登録した 133 人のうち、1 回でも利用した方 90 人ということで約 40 人の差がある。この中には、セーフティーネットとしての登録もあるが、数十名に手が届いていない状況である。その上で今後の方向でアウトリーチを実施することはとても重要なポイントだと感じている。SaSaLAND からのアプローチで繋がる子が 1 人でも増えていくと良い。そのためには人材が必要であり、支援をお願いしたい。

また、ここ 3 か月を見て、教育機関、信州大学と連携して発信してほしいと感じている。固まって何もしゃべらなかつた子が、SaSaLAND に来て今は集団で笑いながら大きな声でしゃべって過ごしている。それに対して親御さんがビックリしている。何年も学校に来られなかつた子が、毎日元気に SaSaLAND に通える要素って何なのか、しっかり分析をして支援センターだけでなく、学校や様々なところへの発信も重視していく必要がある。

(唐木教育次長) 貴重な意見ありがとうございます。信州大学には、これまでも協力をいただいております。市全体で考えられるよう発信していきたい。

(市長) 保護者にも自分の子どもの実態を把握できていない人もいるため、その辺の対応を SaSaLAND が担っている。

## ②子どもの体験・学び応援事業「みらいハッ！ケン」プロジェクトについて

・島田こども未来部長から資料 2 に基づき説明

### 【意見交換】

(委員) 面白い試みだと感じている。地域コーディネーターがいることで、使いやすくなると感じた。いろいろな分類がある中で、その他スポーツとは、ここに例示されている以外のスポーツということによいか。

(こども未来部長) そのとおりである。

(委員) 自治体が体験の場を提供する素晴らしい取組だと感じた。子ども時代の豊かな自然や文化的体験が、その後の非認知的スキル、社会情動的スキルや知的な能力を伸ばすことが最近の研究で明らかになっている。自己肯定感を高める話もあったが、そういう効果も期待できる。現在は小学生以上が対象だが、幼児期ですでに体験の差があり、小学校に上がる前に格差が生じていることを実感している。今後、幼児期も視野に入れていただければと感じた。

- (こども未来部長) ある程度、子どもが主体的に判断できる場所で小中学生としたが、もう少し早い段階からという声もある。今後、事業を進める中で研究したい。
- (委員) 想像していた以上に体験に活用されており、良かったと感じている。SaSaLANDの子どもたちもお菓子作りや料理教室など体験した。また、SaSaLANDに来ている保護者の方が、自分の子どもは体験に入れないと話していた際、別の保護者から、(地域コーディネーターの活動事例にあった)子どもが集まって講師呼んで行う派遣型のスタイルも可能だという話題になり、地域コーディネーター配置の効果がすごく出ている。SaSaLANDに来ている子で、修学旅行で飯田に行った際の水引体験を、その後何年間もやり続け、それがすごく自分の自信になっている子がいる。子どもたちは、何らかのきっかけ、体験が自分の支えになったり、自己肯定感や自尊心に影響している。こういう取組がきっかけになっているのは確実なので、ぜひ拡大しながら続けていただきたい。
- (委員) 私ももっと学習勉強に活用されると予想していたが、親御さんも子どものことをよく考えて体験活動に活用しているのではないか。経済的、時間的に余裕がなかったところや子どもたちの行きたいと思っても言い出せないところの掘り起こしとなり、大変良いことだと思っている。子どもたちが、自分でやりたいことを見つけることで自主性を育てるよい機会になっている。年齢の引き下げについては、専門家と相談して進めていただければよいが、私としては、年長児は入ってもいいのではないかと感じている。
- (こども未来部長) 貴重な意見、好意的な意見をいただき、自信を持って進めていきたいと感じている。補足だが、地域コーディネーターは現在5人配置している。また、年齢の引き下げについては、事務担当の中でも話は出ているので、市長とも相談しながら今後研究をしていきたい。
- (委員) 部活動の地域移行で、次々とクラブが立ち上がっているが、ユニフォーム代や月々の活動費などでためらうところがあったが、ここから費用が出せると思い切って参クラブチームにも加することができるといった話があった。
- (唐木教育次長) 学習ではないところに子どもたちの興味関心があり、子どもたちがやりたいことを見つけられる場を作ることが改めて大事だと感じた。
- (前島教育次長) これまで学校・塾が教育の場であったが、この事業により様々な体験を提供する企業が参画することで長野市全体で子ども大切にして、子どもと関わってまちをつくっていきこうという雰囲気が出てくると、子どもにとって良い環境になっていく。
- (こども未来部長) おそらく全国初の取組。塾代支援や所得制限を設けての事例はあるが、本市のように所得制限を設けていない事例は他になく、他市からも問い合わせがある。全国に広がっていくとよい。
- (委員) 海外にはこういったプログラムが多く用意されている。日本も学校だけが教育

というところから脱却していくところに来ていると感じた。

荻原市長（まとめ）

- ・ハッケンプロジェクトは先行事例もなく、事業を進めるには勇気も必要であった。
- ・首都圏において所得による体験格差解消の事業はあることは承知していたが、私としては、オリンピック開催都市として、オリパラ理念の中で、やはり未来ある子どもたちをみんなで全力で応援するという1つの大きなメッセージ、テーマがあった。それを引き継いでいるのが、この街だと思っている。だからこそ、全ての子どもたちを応援していく出発点はぶれずに進めていきたい。
- ・給付金を家庭に渡したところで本当に親子のコミュニケーションが生まれるのか。この事業を通じて、親子で「どれやる」、「何かやってみよう」といったコミュニケーションが生まれたり、やはり親は子どものことを考えて、子どもにはどんな体験がいいかなど、もっと子どもたちに目を向けてほしいと考えていた。
- ・親子が一緒に考えて、自ら選択することがとても大事。
- ・プログラムを提供する事業者も「あその体験よかった」、「あの習い事いいよ」といった意見を通じて、更に良いサービスが提供できるよう競争してほしい。
- ・自然体験や社会体験は住民自治協議会のプログラムもある。市街地の子どもが中山間地域のプログラムに参加することで、市地域内ではあるが、交流人口が活発化するとよい。
- ・この1歩を踏み出すには悩んだが、本当に職員が頑張っけてプログラムを作ってくれた。更に軌道に乗せ、市民みんなで共有され、みんなで未来ある子どもたちを応援する機運が高まっていくとよいと感じているため、教育委員の皆様にもいろいろご指摘、ご指導をお願いします。

以上